

研究課題 (テーマ)		教育用電子カルテ教材「Medi EYE」とバーチャルタウンを統合したICT活用型シミュレーション教育システムの評価	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部看護学科	講師	杉山由香里
メンバー	看護学部看護学科 看護学部看護学科 看護学部看護学科 看護学部看護学科 看護学部看護学科 看護学部看護学科 看護学部看護学科	准教授 助教 助教 助教 准教授 講師 助教	小林絵里子 室谷寛 竹口将志 村上利矢子 青柳寿弥 朝倉理映 岡田麻代
研究結果の概要			
<p>【背景・目的】</p> <p>Web上に模擬患者事例が住んでいる仮想タウンを作成し、電子カルテ教材と連動させた「バーチャルタウン」を令和5年度に作成した。バーチャルタウンは、看護の対象が家庭や地域で生活していることの理解を深めることを補完する教材である。今年度はバーチャルタウンを使用した学生の使用感や学習意欲を明らかにすることを目的として量的および質的に調査を実施した。</p>  <p>【調査内容と結果】</p> <p><u>量的調査 (無記名自記式アンケート調査)</u> ※結果の一部は、第3回看護ケアサイエンス学会にて発表した。</p> <p>対象 本学看護学部3年生120名</p> <p>調査内容 バーチャルタウンの使用感に関する8項目 IMMS36項目を改変した学習意欲36項目</p> <p>分析 要約統計量を算出し、学習意欲と使用感の順位相関分析を行った。有意水準は5%とした。</p> <p>結果 回収数111, 有効回答数98であった。学習意欲の平均値は注意3.7、関連性3.2、自信3.2、満足感2.8であった。使用感イラストの親しみやすさ4.5、住む地域のイメージ4.1、家族のイメージ4.2等であった。学習意欲と使用感には-0.23~0.48の有意な相関を認めた。</p> <p><u>質的調査 (フォーカスグループインタビュー調査)</u></p> <p>対象 本学看護学部3年生7名</p> <p>調査内容 バーチャルタウンを使用し感じたこと、画面を見て考えたこと、どのような機能があれば学習への意欲につながるかについて質問し、3~4人のグループで自由に語ってもらった。</p> <p>分析 バーチャルタウンを使用した体験、学習への効果、機能面の評価に関する内容を抽出し、抽出した内容を類似点および相違点に基づいてサブカテゴリ、カテゴリを作成した。</p> <p>結果 現在分析中</p> <p>【考察】</p> <p>量的調査結果より、学生はデジタル教材に親しみを持って注目でき、看護の対象を家族と地域で暮らす存在として捉えられていたと考えられる。また、学習意欲と使用感との間には一定の関連があると考えられる。</p>			
今後の展開			
今後、質的調査の分析を進めていく。さらに、量的および質的調査の結果を統合し、より効果的な教材となるよう機能拡張を検討していく。			